



図書館サービスのヒント集

図書館が変える 地域が変わる

読書バリアフリーサービス編



図書館からつくり、誰もが読める高知県

障害、高齢や病気などの理由で、活字での読書が困難な方は、少なくありません。活字での読書が困難であるということは、文字・活字文化に親しむことができないばかりか、**生活に必要な情報を得ることさえ難しい**ことを意味します。

2019年、誰もが読書ができる社会を目指して、「視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律」（通称「読書バリアフリー法」）が制定され、読書環境の整備における国や自治体の責務が明確化されました。これを受け、**高知県では、2025年1月に「高知県読書バリアフリー計画」を策定**しました。

図書館は、障害の有無にかかわらず、すべての人に資料・情報を届ける役割を担う地域の情報拠点です。その実現に向け、**活字での読書が困難な方へのサービス（読書バリアフリーサービス）**について、**バリアフリー図書や取組を始める際のポイント**を紹介します。

「誰もが読める」高知県を目指して、図書館からできることを始めてみませんか。

気づいていますか？

活字での読書が難しい方がいます

活字での読書が困難な方は、県内にどのくらい暮らしているのでしょうか。障害者手帳の所持者や高齢者の割合を参考に確認してみましょう。



視覚障害のある方
約430人に1人 (1,555人)



知的障害のある方
約100人に1人 (6,446人)



肢体不自由のある方
約60人に1人 (10,585人)



65歳以上の高齢の方
約3人に1人 (241,633人)

県人口あたり

障害者手帳の所持者や高齢者が、活字での読書が困難な「視覚障害者等」であるとは限りません。しかし、その中には、読書に困難を抱えている方が少なからずいることが推測されます。加えて、病気や寝たきり、まひ等で読書が困難な方は、県内で数万人規模で存在する可能性があり、その数は高齢化の進展に伴い、さらに増加することが見込まれます。

こんな取組をしています

資料・情報を届けるために

「読書が困難な人」とは？

- 視覚障害、高齢や病気で、文字が見えない、見えにくい
- 知的障害、学習障害があり、文字を読むことが難しい
- 肢体不自由で、本を持つことが難しい

聴く、見る、さわる

読書のカタチを
選べる資料があります。
たとえば…

① 誰でも利用できる資料

大活字本

大きな文字で読む



大活字本コーナー（土佐清水市立市民図書館）

さわる
絵本

さわって読む



南国市立図書館所蔵

② 「視覚障害者等」が利用できる資料

「視覚障害者等」とは、著作権法第37条で「視覚障害その他の障害により視覚による表現の認知が困難な者」とされます。

以下の資料を利用するには、一般の利用者登録とは別の登録が必要です。詳しくは、「図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン」を確認しましょう。



ガイドライン

録音
図書

耳で読む

活字図書を音声で読み上げて録音した図書です。目次や見出しの情報が収録されているため、本をめくるように読むことができます。



利用者の声

音声で読み上げてもらいながら活字を読むことで、本の内容がよく分かるようになった。また、趣味の分野などの情報を得ることで、職場で共通の話題が提供できるようになった。（香南市野市図書館の利用者）

マルチメディア
デジータ図書

耳と目で読む

音声読み上げつき電子書籍です。読み上げる文字をハイライトするため、読んでいるところが分かります。文字の大きさや背景の色も変えることができます。



Q. どうすれば利用できる？

A. ダウンロードサービスを活用しよう

録音図書やマルチメディアデジータ図書は、ほとんどが販売されていません。利用するには、次の方法があります。

① サビエ図書館

（全国視覚障害者情報提供施設協会）



加入施設登録（年間40,000円）することで、話題のベストセラー、実用書や専門書、雑誌などが利用できます。

加入館

香南市、香美市、安芸市、四万十町、南国市（令和7年1月末現在）

② みなさーち（国立国会図書館）



加入施設登録（無料）することで利用できます。

サービスを始めてみよう

Step 1. まずは、確認

⇒ 読書が困難な人は地域にどのくらい暮らしている？潜在的なニーズはどのくらいある？地域の実情を統計などで確認してみましょう。



Step 2. つぎに、準備

⇒ 必要な資料や職員のスキルアップは？自館で無理なく、サービスが始められるように準備しましょう。

Step 3. そして、始めよう

⇒ 動き始めることが大切です。読書が困難な方に加え、支援者や関係者とつながり、実際に利用してもらいましょう。



● 活字での読書が困難な方とつながるために

「読書バリアフリーサービスのニーズがない」、「サービスを始めても利用が伸びない」、それは図書館のPR不足かもしれません。読書が困難な方に加えて、支援者や関係者のもとへ出向き、サービスを伝えていきましょう。

どんなPRが必要？

だれに向けて ⇒ 読書が困難な方や支援者、関係者（福祉、医療、教育など）

いつ・どこで ⇒ 福祉関連のイベントや学校の授業など

どのように ⇒ 利用案内やチラシを配る

体験会を開く
バリアフリー図書を知らしてもらい、
利用につなげる



高知声と点字の図書館

読書バリアフリーの実施・充実に向けて、予算の編成、サービス要綱の作成、事前研修などのサポートを実施しています。詳しくは、HPをご覧ください。



県立図書館が支援します

資料の取り寄せ、各種研修・相談はこちら ▶▶▶▶▶



図書館サービスのヒント集No.2 2025年3月作成

高知県図書館協会

事務局 〒780-0842 高知市追手筋2-1-1（高知県立図書館内）

読書バリアフリーを推進！